

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370199

研究課題名(和文) 昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的考察

研究課題名(英文) Social and Cultural-historical Analysis of Japanese Popular Music in Showa 40s

研究代表者

磯前 順一 (ISOMAE, Jun'ichi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60232378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：昭和四〇年代は、ベンチャーズやビートルズという欧米のポピュラー音楽グループの影響によって、日本にザ・タイガースを初めとするグループサウンズという音楽ブームが発生し社会を席卷した。この日本におけるロック音楽の先駆的時期に焦点を据えることで、現代の民衆史として高度経済成長期の大衆社会としての日本社会の文化的理解の把握を深めることが出来た。特に、社会を知的側面から理解する従来の学問に対して、情動や感情の側面から理解を深められたことは大きな成果であった。

研究成果の概要(英文)：In 1960s' Japan, there emerged the cultural and social movement of the popular music, "Group Sounds" like The Tigers, which was influenced by Western Rock music like Ventures and Beatles. Focusing on this period preceding to "Rock Music," it can be possible to comprehend the cultural characters of mass society in economically high growth society. Especially it is the distinguishing result to understand the Japanese contemporary society in terms of not only intellectually but also emotionally and affectively through the movement of popular music.

研究分野：宗教学

キーワード：大衆芸術 メディア芸術 エレキ音楽 高度経済成長 戦後史 芸能界 ロック音楽

1. 研究開始当初の背景

(1) ポピュラー音楽を研究対象に選んだ画期的な研究として、中村俊夫他『日本ロック大系 1957 - 1979』(白夜書房、1990年)さらにはジュリアン・コーブ『JAPROCKSAMPLER』(原著 2007年、日本語訳は白夜書房、2008年)、マイケル・ボーダッシュ『さよならニッポン、さよならアメリカ』(原著・翻訳も 2012年、白夜書房)がある。しかしそれは一部の音楽愛好者のための叙述にとどまり、ポピュラー音楽を戦後日本の社会・文化史の一部に組み込むことを目的とするものではなかった。それはまた音楽史的にみても、当時のポピュラー音楽のもつ「音」自体の衝撃がどのようなものであったか、それが聴衆である一般民衆の若者にどのように訴えかけるものであったか、情動的な水準から説き明かすものにはなっていない。

(2) 戦後の日本社会研究において、昭和四〇年代の大衆文化の研究は極めて脆弱であった。それは民衆史が明治期の農村や民衆宗教の教祖に主眼を置いたものであったため、戦後の大衆社会における民衆文化についてはどのような切り口から論じてよいか、明確な視点をもちえなかったためである。

(3) グループサウンズの研究は、近年、黒沢進や中村俊夫らによって推進され、スパイダース、ゴールデンカップス、ジャックスなどの音楽的評価はかなり進んできた(「特集グループサウンズのすべて」『レコードコレクターズ』18巻5号、1999年、黒沢進『日本ロック紀 1966-1969』シンコーミュージック・エンタテイメント、2007年)。一方でザ・タイガースに関する本格的な研究はこれからが待たれるが、2011年になって主要メンバーによる再結成、各メンバーのインタビューや回顧録が揃う等、研究条件がようやく整ってきた(『GSパニック』シンコーミュージック、2011年、瞳みのる

『ロング・グッバイのあとで』集英社、2011年)。現在こそ、他の主要グループサウンズや 1970年代冒頭に台頭するニューロック・ムーブメントのなかにその中心的存在であったザ・タイガースを位置づけ、当時のポピュラー音楽の見取り図を社会・文化的な背景のもとで得ることが可能になったと言える。

2. 研究の目的

昭和四〇年代は、ベンチャーズやビートルズという欧米のポピュラー音楽グループの影響によって、日本においてグループサウンズというポピュラー音楽が隆盛を極めた時期であった。この日本におけるロック・ミュージックの導入の先駆をなす時期に焦点を据えることで、現代民衆史・大衆社会論として日本の戦後社会の転換点(経済繁栄を謳歌した昭和元禄から、社会的異議申し立てを伴った学生運動への転換期)にあたるこの時期を、社会・文化史的側面から考察を深めていく。特に現代思想や宗教学の分野で脚光を浴びる「情動 affect」あるいは「魅了する力 attraction」として、大衆音楽から戦後社会の社会・文化史的な側面に音楽から迫ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、近年盛んな日本の 1960年代論を踏まえ(小熊英二『1968年』新曜社、2009年)、社会・文化史的な考察を行ない、そこにジル・ドゥルーズのいう情動の問題(ドゥルーズ/ガダリ『哲学とは何か』原著 1991年、河出書房新社、1997年)、さらに今日の宗教学が主題とする「魅了する力 attraction」に着目することで、情動的次元でのポピュラー音楽が人間に及ぼす影響を民衆史や大衆社会論など戦後日本思想史の成果に結び付ける方法を用いる。

4. 研究成果

(1) ザ・タイガースを中心とする昭和四〇年代におけるグループサウンズの活動年譜の作成、そのための基本をなす書誌一覧の作成。2013年のザ・タイガースのツアーパンフレットおよび磯前順一・黒崎浩行『ザ・タイガース研究論』に収録して発表した。

(2) ザ・タイガースを軸とする昭和四〇年代日本の大衆社会史に関する歴史叙述、およびそれにふさわしい一般読者に向けた文体を確立した。その文体に基づいて従来のグループサウンズ・ファンおよび新しい読者層の感情にアピールを行い、磯前順一『ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた』を刊行し、二万五千部の印刷部数を達成した。

(3) ザ・タイガースを軸とする昭和四〇年代日本のポピュラー音楽史に関する、宗教学・風俗史・音楽史・戦後史からの理論的研究が可能になった。すなわち、従来の民衆史や大衆社会論が概念的・理論的な側面からの社会分析のみにとどまりがちであったのに対して、音楽史と結合した宗教学の議論を、社会と人間の理解を感情の深部から捉えなおす身体実践の次元に結びつけることが、ザ・タイガース五人のメンバーの物語の叙述を通して可能となった。その物語における叙述として『ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた』、理論的考察として磯前順一他編『他者論的転回』および『宗教と公共空間』がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

磯前順一、虚空を映し出す大きな瞳 1970年代の沢田研二論、日文研、査読無、56号、2016、11-18

磯前順一、天皇制国家と余白 「国家と宗教」を論じるために、宗教研究、査読無、89巻2号、2015、193-216

〔学会発表〕(計 3件)

磯前順一、ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた <戦後民主主義と高度経済成長>再考、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構の公開講演会、有楽町マリオン、2014年6月7日

磯前順一、神道と公共性、日本宗教学会大会、國學院大學(東京都渋谷区)、2013年9月7日

〔図書〕(計 7件)

磯前順一他、ナカニシヤ出版、他者論的転回 宗教と公共空間、2016、408

磯前順一、河出書房新社、死者のざわめき 被災地信仰論、2015、264

磯前順一他、近代映画社、ザ・タイガース研究論、2015、210

磯前順一他、東京大学出版会、宗教と公共空間 見直される宗教の役割、2014、288

磯前順一、集英社、ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた、2013、286

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

//research.nichibun.ac.jp/ja/researcher/staff/s007/index.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯前 順一 (ISOMAE, Jun'ichi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60232378

(2) 研究分担者

井上 章一 (INOUE, Shoichi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：40135603

細川 周平 (HOSOKAWA, Shuhei)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：70183936

(3) 連携研究者

()

研究者番号：